



**IPAMIA**

Independent Performance Artists' Moving Images Archive

非制度で、非営利のアーカイヴというのは、そもそも、日本のような国では、アーティストからすると、抵抗のアクションかもしれない。制度的なもので覆われている日本だから。

しかし、海外にはたくさんあります。IPAMIAのリンクページにシェアしているのは、以下。

IPAMIAと連携、もしくは、参考にしているアーカイヴたち

[Asia Art Archive](#) (HongKong)

[Black Kit, Performance Art Archive](#) (Germany) → [Documenta Archiv, Kassel](#)

[Singapore Art Archive Project](#)(Singapore) → ?

Independent Archive (Singapore) → [Lee Wen Archive, Performance Art](#) (Asia Art Archive)

[Performance Art Argentina](#) (Argentina)

[ubu web](#) (about us 和訳)

[Archives of Women Artists Research &Exhibition](#)

[Scopio Project](#) (日本)

[Keio University Art Center](#) (日本)

[Oral History Archive of Japan](#) (日本)

[Japanese Sound Archive](#) (日本)

ABOUT

# NEW LIBRARY NOW OPEN

AAA



Black Kit



Black Kit

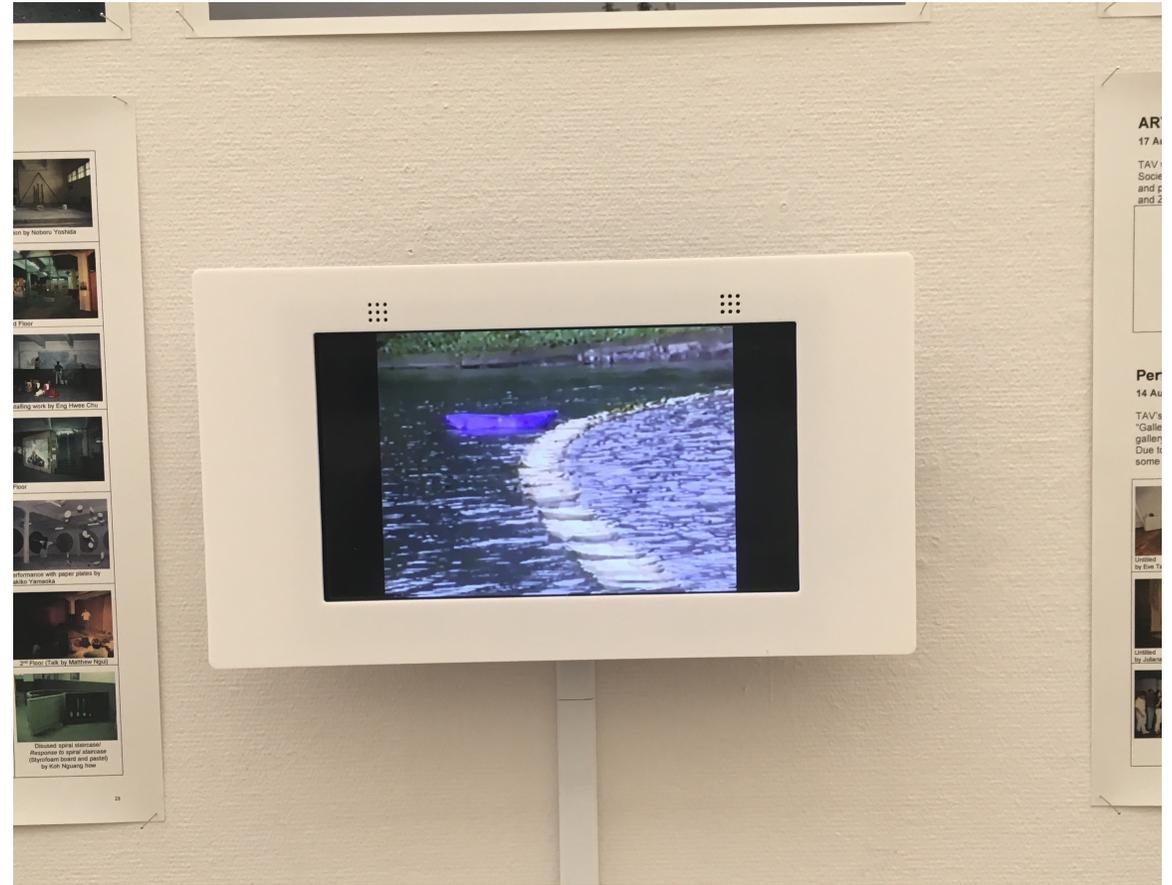


なぜ、Independentでアーカイヴをするのか。

SAAP



2017 Sun shower展  
(新国立美術館)



2017 Sun shower展 (新国立美術館)

1992 Yamaoka Sakiko 《Topaz》



過去写真は、アーティスト自身よりも、それ以外の人たちの様子を見るのが面白い。なので、「価値評価」で選ばれた資料ではなく、関係のあるものなら、なんでも入れておくセンスが必要だろう。

《Don't give money to the arts》  
Tang Da-Wu 1995



IPAMIA

## \* 設立きっかけと経緯

\* 2011年の震災以降、山岡は日本をベースにした公共的な活動を模索していた。社会へのギフトとして。2016年に設立。

外付けHDDが壊れた → miniDVから取り込み直す。

→ パフォーマンスを好きな人、まだよく知らない人に見てもらいたい。

→ 2016年Youtubeにアップし始める。 → 2018年、websiteを作る。（広報目的）

メンバーを増やしつつ、イベントを企画する。（これまでの11回）

\* パフォーマンスアートについて学び直したい。現在、未来に生きるパフォーマンスアートを作るために。

↓

いずれ制度的な団体への寄贈したい。

## \* 収集過程、方針

パフォーマンスアーティストのネットワーク活動がそのベース。

山岡が、アーティストとして旅する中で、撮りためていた動画がその母体。加えて、関連するアーティストたちにコンタクトし、寄贈を依頼している。

ヨーロッパ、中東、南北アメリカ、東南アジア、東アジア、日本と広範囲。この数年は、日本人の活動を意識的に増やしている。

当初は動画だけであったが、デジタルのテキストや、紙資料整理していく。

興味の対象としては、組織されていない身体、空間、時間の、個人による表現と実践の、可能性を開く作品であり、美術館や大学などで、あまりリサーチされていないアーティストたちの情報。いわゆる、ダンス、舞踏、演劇はそこに含まれない。



## 確認書

..... (以下、「甲」という。)と Independent Performance Artists' Moving Image Archive (以下、「乙」という。)は、甲が所有する、別紙1に記載された動画および画像の複製物 (以下、「本件動画等」という。)を乙へ寄贈するにあたり、以下のことに同意する。

1. 甲は、乙が研究、広報目的に、本件動画等の全部または一部をアーカイブし、または公衆の閲覧に供するため Web サイトおよび動画共有サイト等に掲載して利用すること、ならびにイベントや上映会等で上映して利用することを許可する。ただし、乙による利用は、営利を目的とするものであってはならない。
2. 甲は、前項の許諾をする権限を有することを表明し保証する。
3. 甲は、第一項目の利用にあたり、目的の範囲内において、乙が本件動画等を改変 (編集) することを許可する。
4. 乙は、第1項の利用に際し、本件動画等内や Web サイト等に、甲が指定するクレジットおよび Creative Commons License 4.0 (表示、非営利、改変禁止)を示すアイコンを表記する。
5. 乙宛てに、外部の研究機関や研究者等から、本件動画等、または関連資料の利用の申し入れがあった場合、乙は、相手方と Creative Commons License 4.0 (表示、非営利、改変禁止)の条件を継承する旨の確認書を取り交わした上で、複製物を寄贈することができるものとする。
6. 本確認書は Creative Commons License 4.0 (表示、非営利、改変禁止)に準拠し、同ライセンスに従って解釈されるものとする。

年 月 日

甲：お名前  
住所  
メールアドレス

サイン

乙：Independent Performance Artists' Moving Image Archive (IPAMIA)  
埼玉県川越市中原町 2-19-1-1106 350-0042 山岡さ希子  
ipamiarchive@gmail.com

## 動画を寄贈いただく際に、寄贈者と その取り扱いについてお約束する同意書書式

- 生データをいただいた場合など、編集可 (必要)
- 編集済みで完成しているもの場合は、編集不可

英文もあり。

これらを作るために「Arts&Law」に相談した。  
結局、10万円近くの費用が、かかる。  
最近は、IPAMIAのアドバイザーに相談している。  
(いつまで、タダで教えてもらえるか?)

確認書は、他に、以下の件についての用意がある。

- IPAMIAから他機関に寄贈する際のもの
- レクチャーや展覧会に貸し出す時のもの

# Oral History IPAMIA Project

オーラル・ヒストリー・プロジェクト

## \* オーラル・ヒストリー・プロジェクト

2022年、IPAMIAは公益財団法人小笠原敏晶記念財団の助成を受け、オーラル・ヒストリー・プロジェクトを実施している。日本におけるパフォーマンスアートの記録のミッシングリンクとも言える、1980年代以降のパフォーマンスアートシーンを調査するため、その時代に活動をしていたアーティストや企画者の人たちにインタビューをし、テキストや画像などで記録する。

荒井真一さん (1958年生まれ)	アーティスト
西島一洋さん (1952年生まれ)	アーティスト
谷川まりさん (1963年生まれ)	アーティスト
村田真さん (1954年生まれ)	美術ジャーナリスト、「ぴあ展 はみだし部門」(1977)でパフォーマンスを企画
丸山常生さん (1956年生まれ)	アーティスト
及川廣信さん (1926~2019年)	プロデューサー、「パフォーマンス・フェスティバル・イン・檜枝岐」(1984~1990)を企画
松永康さん (1957年生まれ)	キュレーター、元埼玉県立近代美術館学芸員、「パフォーマンスと記録」(1997)企画

インタビュアー：山岡さ希子（アーティスト）、北山聖子（アーティスト）、たくみちゃん（アーティスト）、  
瀬藤朋（研究者）

Nishijima Kazuhiro



Tanikawa Mari



Arai Shin-ichi



Maruyama Tokio  
photo:Hirao Akihiko



Akagi Denki



AETTA

Oral History  
**IPAMIA Project**  
オーラル・ヒストリープロジェクト

IPAMIA event 11  
オーラルヒストリープロジェクト2022総括

## 80、90年代のIPフォー マンス・アートを語る!?

1980年代、IPフォーマンス・アートは大流行だった!? では、一体、どんな人がどこで何をしていたのか?

全く研究されず、忘れられていたのは、なぜか?

IPフォーマンス・アートの動画のアーカイブである、私たちIPAMIAは、そのミッシング・リンクをつなぐべく、当時、活躍されていた方々をお一人ずつ訪問し、2022年1年間に、5人の方々のお話を聞くことができました。勿論まだまだ、とは口です。そこで、この年末の公開イベントでは、その方々を一堂にお招きし、ご活動をご紹介するともくrostトークを開催し、インタビュウでは出て来なかった新たな事実、新たな見方、そして、次のリサーチの方向性を探るつもりです。そして、勿論! 未来のIPフォーマンス・アートへの面白いヒントを引き出しますよ!!

### ゲストアーティスト

荒井真一、西島一洋、谷川まり、丸山常生

ゲスト 松永康(アートコディネーター) 敬称略

### インタビュアー

山岡さ希子、北山聖子、たくみちゃん

2022,12,29

16:30 open 17:00 ~ start

入場料 1000円(含ドリンク)

### 主催 カブトニルン

<https://www.subterranean.jp>

東京都板橋区氷川町46-4 B-1F

東武東上線大山駅北口から徒歩7分

都営三田線板橋区役所前駅から徒歩3分

### 問い合わせ

[ipamiarchive@gmail.com](mailto:ipamiarchive@gmail.com)

<https://ipamia.net>



主催 Independent Performance Artists' Moving Images Archive (IPAMIA)

助成 小笠原敏雄記念財団

# 年表 作成中！

年月日	イベント/展示名	スペース名	地名	企画者	参加アーティスト
1977	第1回びあ展1977	大泉撮影所	東京	村田真	霜田誠二（舞踏）、田中泯（舞踏）、 花上直人（蜘蛛の巣を作る）、中城まさお（口述？）
1978~1984	Summer Performance	神奈川県民ギャラリー、 ドイツ文化センターなど	神奈川	浜田剛爾	浜田剛爾、安土修三、小杉武久、鈴木昭男、 ステラーク、風倉匠、島州一
1980	Ueno'80 - Action Research	東京芸大大学会館	東京		丸山常生
1981	都市 - 土地 - Structures & Drawings	G.アートギャラリー	東京		丸山常生
1981	「標界」 - フィールドワーク [上野~新橋]	真木画廊	東京		丸山常生
1982	ニュー・ペインティング現象上陸				
1982	行為と創造 : 現代美術からの啓示 I	ラフォーレ飯倉	東京	南条史生	ブルース・マクレーン、ダン・グレアム、 ジュリオ・パオリーニ、ダニエル・ビュラン
1982	ヨゼフ・ボイスの世界 : 現代美術からの啓示 II	東京都美術館講堂	東京	南条史生	ヨーゼフ・ボイス
1982	『パフォーマンス』出版 ローズリー・ゴールドバーグ著		東京		
1982	「標界」 - 近傍系におけるフィールドワーク	G.アートギャラリー	東京		丸山常生
1982年9月~12月	Fine Art Presentation ベーパーミントグリーン	プラン-B	東京		丸山常生、宮島達夫など
1982	音・声・言葉	東京都立大学	東京	荒井真一	
1982	Tomorrow展 '82	銀座スルガ台画廊	東京		丸山常生、など
1983	「ニューウェーブ」と呼ばれる若手作家の台頭				
1983	天国注射の昼	日比谷野外音楽堂	東京		赤木電気（荒井真一+サエグサユキオ+星野正治+久住卓也+赤木能里子
1983	「回」展	神奈川県民ギャラリー	神奈川		丸山常生
1984年 6月	ヨーゼフ・ボイス展	西武美術館	東京		ヨーゼフ・ボイス
1984年 6月	ナムジュン・パイク展 - ヴィデオ・アートを中心に	東京都美術館	東京		
1984年 6月	コンサート・パフォーマンス	草月会館	東京		ナムジュン・パイク、ヨーゼフ・ボイス
1984年6月	ローリー・アンダーソン コンサート "ミスターハートブレイク"	フォーレミュージアム原宿、 日本青年館、大阪サンケイホ ール、 京都会館第2ホール	東京 大阪 京都	ツルモトルーム	ローリー・アンダーソン
1984年6月1日	『一分間スルーソングテープ』 発売			霜田誠二	霜田誠二、など
1984年8月	パフォーマンス・フェスティバル'84 IN HINOEMATA	檜枝岐村の歌舞伎小屋や公民館 、 河原など様々な場所で	福島	主催：肉体言語舎/ジャム・パフ ォーマンス 運営：フェスティバル運営委員会 制作：スコピオ・プロジェクト	粉川哲夫、鴻英良、池田一、浜田剛爾、ガリバー、川仁宏、竹田賢 一、ヒグマ春夫、徳田ガン、星野共、及川廣信など
1984	ネクスト・ウエーブ・オブ・アメリカン・ウーマン	ラフォーレ赤坂 ?	東京	ツルモトルーム	ローリー・アンダーソン、リサ・ライオン、 モリサ・フェンレイ、シンディ・シャーマン

## IPAMIA 2024年以降

1. 動画の整理、収集、公開
2. 紙資料の整理と収集、公開
3. 70年の日本の美術における「行為」について勉強会
4. 海外の活動との連携（コロナで休んでいた）
5. 継続的な支援の可能性を探る
6. これからのパフォーマンスのために研究会と実践（2024年予定）

[Independent Performance Artists' Moving Images Archive](#)

# 山岡さ希子

2014 Daily Revenge



2003 Listen!



2023 Public Double



## 北山聖子

1982年、長野県生まれ。2008年よりパフォーマンスアートを始め、国内外のパフォーマンスフェスティバルに参加。2010年代は、観客をパフォーマンスに引き込むパフォーマンスを展開。2020年前後より自宅や自然の中など身近な環境の中でパフォーマンスを行うようになり、近年では一日中影を追いかける《Chasing a Shadow》や、花が咲く時間に合わせパフォーマンスする《Waiting for Flowers》、観客から集めた動詞を6時間かけてアーティストが行う《Verbs》などデュレーショナルなパフォーマンスを多く行なっている。

《Waiting for Flowers》 2021



《Chasing a Shadow》 2021/2023



《Verbs》 2022



<https://seikokitayama.com/performance-2/>



IPAMIAとは  
about IPAMIA

アーカイブ  
archive

イベント  
event

サポートのお願い  
support us

リンク  
link

お問い合わせ  
contact us



# D P P T

Durational Performance Project Tokyo

2024

IPAMIA × Jungle Gym

Durational Performance Project Tokyo 2024

□ IPAMIA event

